

グロス・ビディングの休止について

第90回 制度設計専門会合 事務局提出資料

令和5年10月31日（火）



電力・ガス取引監視等委員会
Electricity and Gas Market Surveillance Commission

本日の内容

- グロス・ビディングについては、①市場の流動性向上、②価格変動の抑制、③透明性の向上という3つの効果を期待して、2017年4月以降、旧一般電気事業者（沖縄電力を除く）により順次開始された。
- 第64回制度設計専門会合（2021年8月31日）において、グロス・ビディングの当初の3つの政策目的のうち、①市場の流動性向上、②価格変動の抑制については、一定程度達成されている一方で、③透明性の向上については、引き続き課題があると評価され、今後、取引の透明性をより高めるための新たな手段に移行することを前提として、当該手段が導入される際に、併せて現在の形でのグロス・ビディングを廃止することとされた。
- その後、第87回制度設計専門会合（2023年7月28日）において、③「透明性の向上」についても当初期待された役割を終えたと考えられるため、**2023年10月より、当面グロス・ビディングを休止し、その後、市場への影響がないことが確認できれば取りやめてよい**こととされた。
- こうした御議論を踏まえて、**10/1受渡し分より、すべての旧一般電気事業者においてグロス・ビディングが休止**されているところ、各社の具体的な入札行動の変化等を御確認いただいた上で、**グロス・ビディングの休止がスポット市場に影響を与えていないかを御確認いただきたい**。

グロス・ビディングに関する今後の方針について（まとめ）

第87回制度設計専門会合
(令和5年7月28日開催)資料3より抜粋

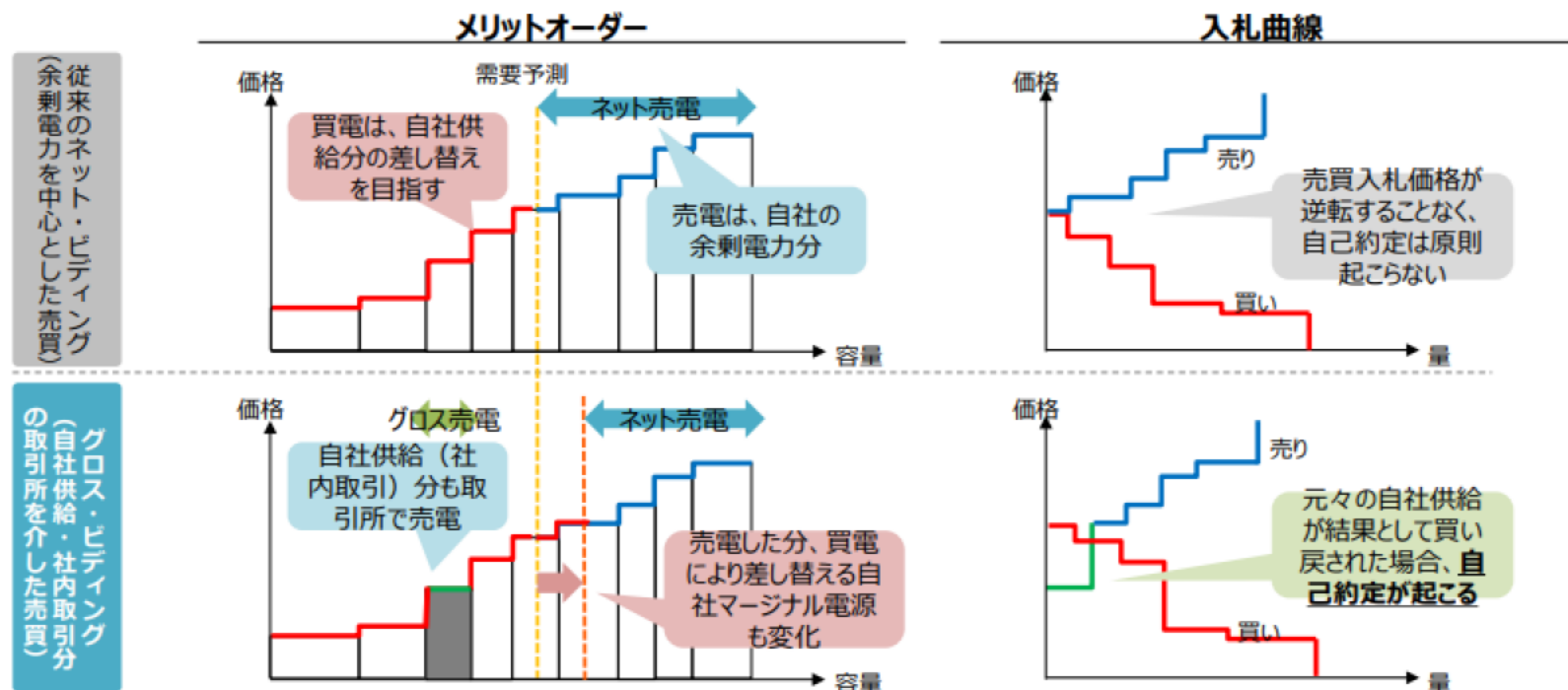
- 第64回制度設計専門会合において、グロス・ビディングの当初の3つの政策目的のうち、①市場の流動性向上、②価格変動の抑制については、一定程度達成されている一方で、③透明性の向上については、引き続き課題があると評価され、今後、取引の透明性をより高めるための新たな手段に移行することを前提として、当該手段が導入される際に、併せて現在の形でのグロス・ビディングを廃止することとされた。
- 今般、内外無差別な卸売のコミットメントに基づき、①2023年度の通年の相対契約から、新たに卸標準メニューを作成・公表していること、②発電・小売部門間の情報遮断・社内取引の条件を定めた文書が存在すること、がすべての旧一般電気事業者において確認されたところ。
- 旧一般電気事業者による内外無差別な卸売のコミットメントに基づき、このような取組が進められていることを踏まえれば、③「透明性の向上」についても、グロス・ビディングは当初期待された役割を終えたと考えられるため、すべての旧一般電気事業者について、グロス・ビディングを取りやめてよいこととしてはどうか。
- ただし、グロス・ビディングの取りやめによる市場等への影響がないよう、直ちに取りやめてよいとするのではなく、当面は休止してよいこととし、その後、影響がないことが確認されれば取りやめてよいこととしてはどうか。また、万が一にも夏の需要期に市場に影響を与えることがないよう、本年10月から休止してよいこととしてはどうか。

(参考) グロス・ビディングの概要

第64回制度設計専門会合
(令和3年8月31日開催)資料3より抜粋

- グロス・ビディングとは、従来、余剰電力を中心に行われていた取引所取引（ネット・ビディング）に加え、旧一般電気事業者の社内取引分を含めて取引所を介して売買する取組。①市場の流動性向上、②価格変動の抑制、③透明性の向上という3つの効果が期待され、導入された。
- 2017年4月以降、旧一般電気事業者（沖縄電力除く）が、順次、グロス・ビディングを開始。同年8月以降、9社全てがグロス・ビディングを実施している。

第28回制度設計専門会合
(2018年3月29日) 資料4より抜粋・一部修正



※上記は、グロス・ビディングを実施する際でも供給力が不足しないときのイメージ。需要に対する供給力が足りなくなるおそれがある場合においては、高値での買戻しもあるものと考えられる。

(参考) グロス・ビディングに期待される効果

- グロス・ビディングについては、主に次の3つの効果が期待されていた。

グロス・ビディングに期待される効果

①市場の流動性向上

- ・ グロス・ビディングとして限界費用ベースで売買入札を行うため、買い入札の限界費用が約定価格を下回り、**全量買戻しとならない場合には、市場の流動性向上**に貢献する。

②価格変動の抑制

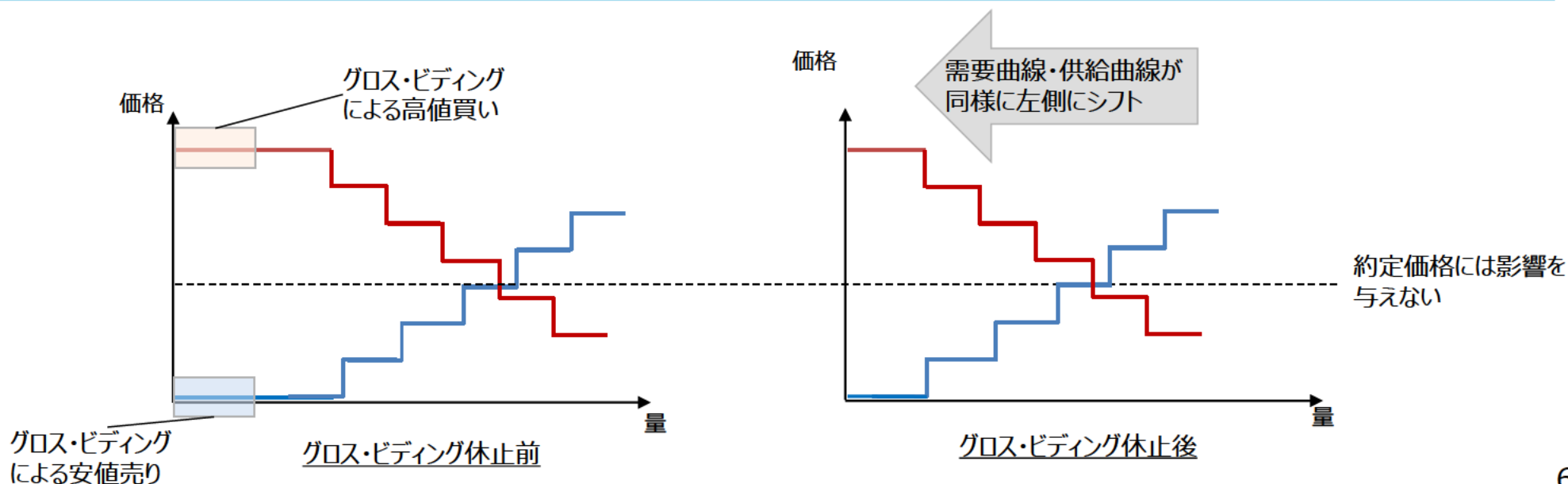
- ・ グロス・ビディングにより、売買両面において約定価格帯近傍の入札が増加するため、売買入札曲線の傾きが緩やかになり、価格変動の抑制効果が発生する。

③透明性の向上

- ・ グロス・ビディングの実施後には、社内取引の一部が市場経由で行われるため、社内取引価格が明確となり、社内取引が透明化されることが期待される。

グロス・ビディングの休止が需給曲線にもたらす変化

- グロス・ビディングは、各社の自社需要分の一部を市場経由で取引するものであり、各社は基本的に、安値（0.01円/kWh）で売り入札を行うとともに、同量を高値（999円/kWh等）で買い入札を行うことで、買戻しを行っていた。
- このため、グロス・ビディングを休止すると、安値の売り札が市場から一定量なくなると同時に、高値の買い札が同量市場からなくなることが見込まれ、需要曲線、供給曲線が同様に左側にシフトするため、見かけ上の取引量こそ減少するものの、実質的な需給バランスや約定価格には影響を与えないと考えられる。
- 休止後、実際にこのような変化が生じていたのか、ミクロ（個社の入札行動）、マクロ（市場全体）、双方の視点から確認することとしたい。



スポット市場における売買入札量の変化（個社）

- まず、グロス・ビディングの休止前後における、事業者別の安値の売り入札量と高値の買い入札量の変化を確認したところ、以下のとおり。
- **中国電力、北陸電力においては、本年10月1日の前後において、安値の売り入札量と高値の買い入札量に変化がない※**ことが確認された。

※中国電力は、2021年11月以降、「市場価格が極端な高値または安値になると想定される日には、供給力不足または供給力余剰が発生するおそれがある」との理由から安値売りや高値買いを伴うグロス・ビディングを実施していない（これまでの本専門会合における定期的なモニタリング報告においても確認済み）。

北陸電力は、2023年3月以降、グロス・ビディングを実施していないことが確認された。北陸電力によれば、「市場価格がグロス・ビディング対象の石炭火力の限界費用よりも低く推移することが多く、グロス・ビディング買戻し分のみ約定し、火力電源の下げ代が不足するおそれがある」との理由から実施していない、とのこと。

- 一方で、**上記以外の事業者（北海道電力、東北電力、東電EP、中部ミライズ、関西電力※、四国電力、九州電力）においては、本年10月1日を境にグロス・ビディングを休止したことに伴って、安値の売り入札量の減少量が、高値の買い入札量の減少量より大きくなっている**ことが確認された。（詳細は次項に記載）

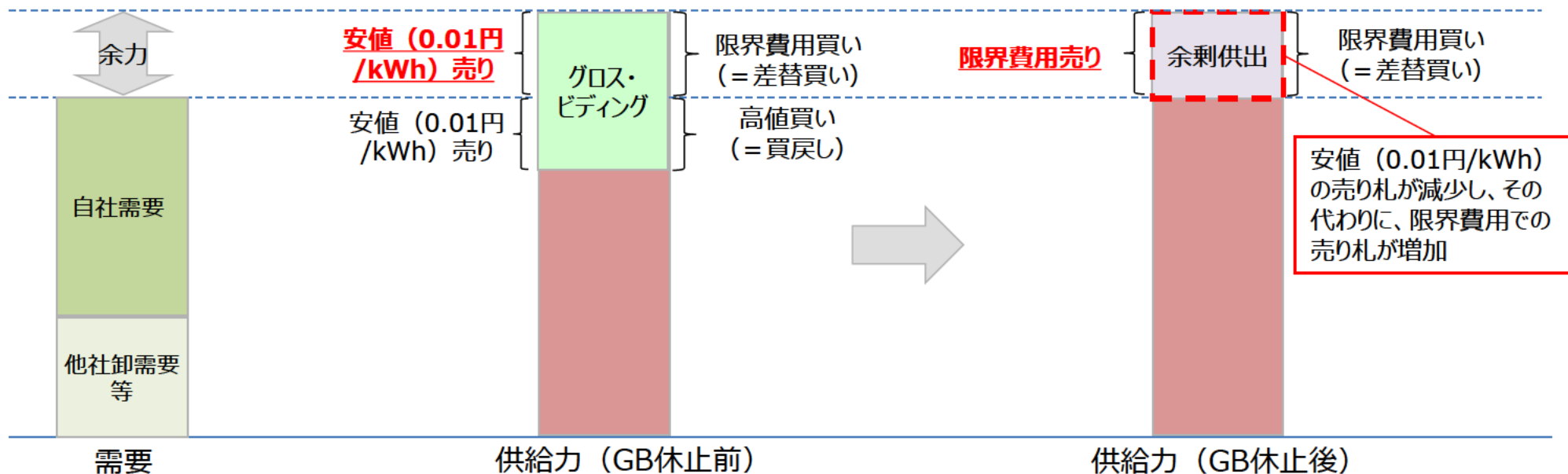
※関西電力は、入札システムのトラブルにより、本年9月22日受渡し分以降グロス・ビディングを休止しており、9月22日を境に安値の売り入札量の減少量が、高値の買い入札量の減少量より大きくなっていることが確認された。

グロス・ビディング休止後、安値の売り入札の減少量の方が大きい理由

- グロス・ビディングの休止後、複数社にて、安値の売り入札の減少量の方が、高値の買い入札の減少量よりも大きい理由を確認したところ、従前、グロス・ビディングの目標量を達成するために、自社需要の一部に加え、余剰供出の一部もグロス・ビディングと位置づけて安値（0.01円/kWh）売りを行っていた場合があったが、グロス・ビディングの休止後は余剰供出の全量を限界費用売りに変更したため、ということが確認された。
- 従前の、余剰供出をグロス・ビディングの一部と計上する考え方が適切であったかはさておき、従前から、自社需要を超える供出分については限界費用で同量の差替買いが行われていたことから、今般の入札方法の変更に伴って、安値（0.01円/kWh）の売り入札量が減少するものの、実質的にスポット市場に影響は与えていないものと考えられる※。

※0.01円/kWh売り・限界費用買いを行うこと（＝従前の入札方法）は、市場価格>限界費用となる場合に、ネットで市場に供出するという点で、限界費用売り・限界費用買いを行うこと（＝現在の入札方法）と同じ効果をもたらすと考えられる。

【入札方法の変化（イメージ）】



スポット市場における売買入札量の変化（全体）

- グロス・ビディングを休止した直後の1週間（10/2～6）の売り入札量と買い入札量を、その直前の1週間（9/25～29）と比較すると、ほぼすべての曜日でいずれも減少しており、**すべての曜日で売り入札量の減少量よりも買い入札量の減少量が大きくなっている**。
- 買い入札量の変化は、需要の変化などグロス・ビディングの休止以外の要因も考えられるため、このことのみをもって直ちに影響の有無を判断できるものではないが、**少なくとも市場の需給バランスがタイト化してはいない**ことは確認される。

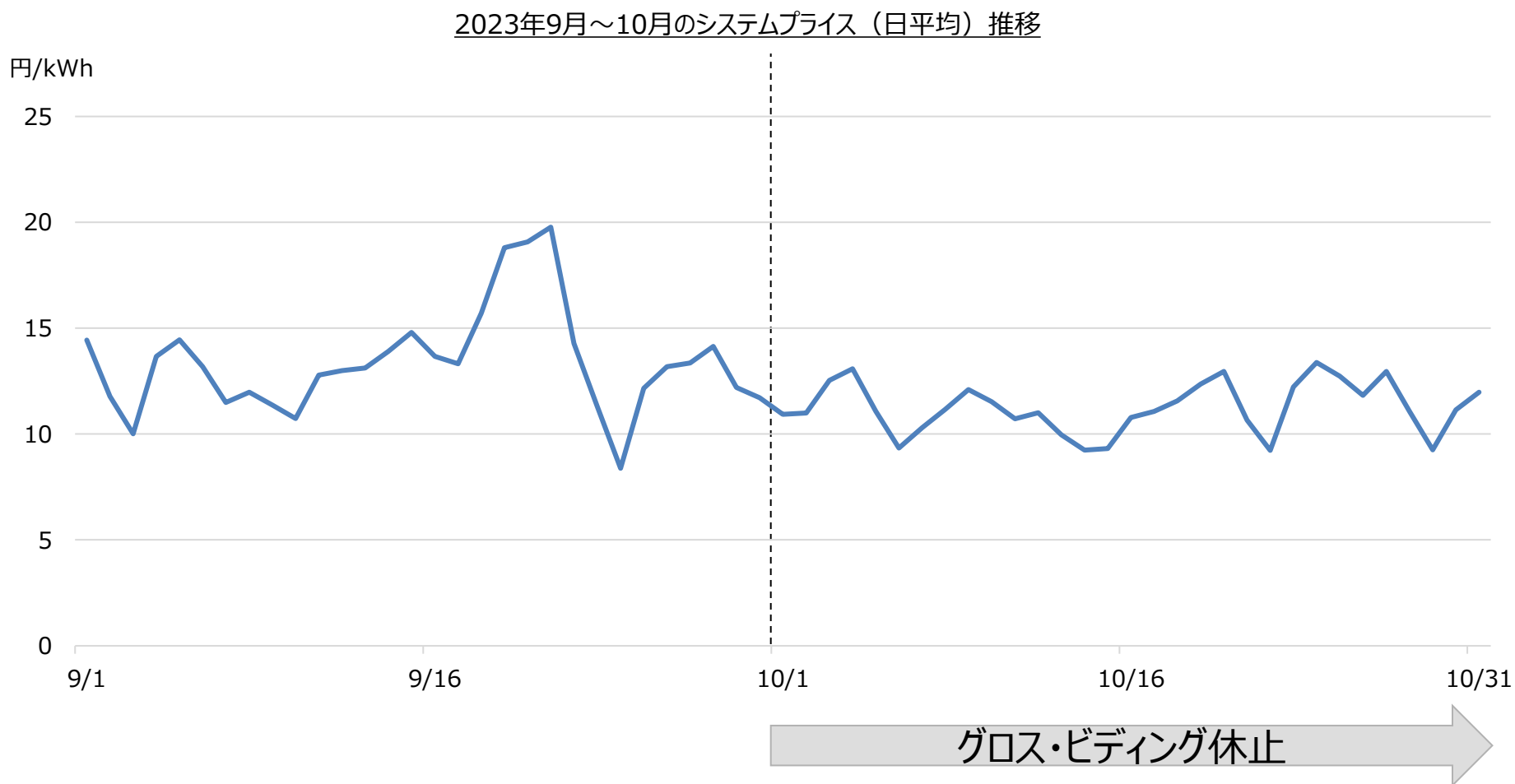
グロス・ビディング休止前後の売買入札量の変化（MWh）

| | 9/25週の入札量(A) | | 10/2週の入札量(B) | | 入札量の減少量（A-B） |
|-------|--------------|-----------|--------------|-----------|--------------|
| 売り入札量 | 9/25(月) | 1,145,940 | 10/2(月) | 993,919 | 152,021 |
| | 9/26(火) | 1,059,667 | 10/3(火) | 965,469 | 94,198 |
| | 9/27(水) | 995,304 | 10/4(水) | 879,394 | 115,910 |
| | 9/28(木) | 990,317 | 10/5(木) | 952,140 | 38,177 |
| | 9/29(金) | 1,044,668 | 10/6(金) | 1,098,113 | -53,445 |
| 買い入札量 | 9/25(月) | 988,385 | 10/2(月) | 808,080 | 180,305 |
| | 9/26(火) | 1,024,983 | 10/3(火) | 832,318 | 192,665 |
| | 9/27(水) | 1,036,067 | 10/4(水) | 834,500 | 201,567 |
| | 9/28(木) | 1,052,236 | 10/5(木) | 776,361 | 275,875 |
| | 9/29(金) | 993,807 | 10/6(金) | 786,605 | 207,202 |

買い入札量の減少量の方が大きくなっている

スポット市場におけるシステムプライスの推移

- グロス・ビディングを休止した本年10月1日を境にして、市場価格に大きな変動は見られていない。



まとめ

- 今回確認した限りでは、グロス・ビディングの休止がスポット市場の需給バランスや約定価格に影響を与えている事実は確認されなかった。
- 一方で、今回の確認のみをもって、市場への影響はなく、グロス・ビディングを取りやめてよいと判断するのではなく、当面（休止から1年程度）は引き続き、市場への影響の有無を注視していくこととしてはどうか。
- また、グロス・ビディングの休止が実質的に需給バランスや約定価格に影響を与えるものではないとしても、市場における取引量の減少や、0.01円/kWhの売り札の減少などが、市場参加者に誤解や不安を与えないよう、引き続き適切な情報発信を行っていくこととしたい。